

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	社会福祉法人長岡福祉協会	代表者	田宮 崇	法人・事業所の 特徴	H24年5月に開設。1階に小規模、サテライト型特養、地域交流スペース、キッズルームが併設されている。地域の方も気軽に利用できるスペースがあり、フリーカフェを行なっている。地域の中の施設としての特性を活かせるよう、利用者の思い、希望、ご家族や多職種との連携を図りながら、生活が継続できるよう取り組んでいる。
事業所名	小規模多機能型居宅介護川崎	管理者	佐藤哲夫		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1 人	3 人	2 人	0 人	1 人	1 人	1 人	2 人	1 人	12 人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認			<ul style="list-style-type: none"> ●「初期支援」「～したいの実現」など、できていない点に大切な視点が含まれている。 ●どんな職場でも職員みんなで共有することが大切。(情報共有) ●【事業所自己評価 9. 人権・プライバシー】②虐待は行われていないの項目にてなんとかできているが3名、正直な回答ですが少し複雑です。 	<ul style="list-style-type: none"> ●虐待、身体拘束について、再度、研修にて情報共有し、理解を深め防止に努めていく。 ●初期支援について、事前情報の情報共有、サービス開始後は、利用者、家族との職員の顔つなぎ、援助内容の確認を行なう。
B. 事業所のしつらえ・環境			<ul style="list-style-type: none"> ●全体的にあたたかく開放的。 ・事業所内でのご利用者の表情、ご様子などについての項目があってもよいのではないのでしょうか？ ●運営推進会議だけでは確認が難しいので、見学等の時間を設けて頂けるとよかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議、フリーカフェ、行事等にて、事業所を知って頂くため、事業所説明会の機会を設ける。
C. 事業所と地域のかかわり			<ul style="list-style-type: none"> ●相談所としての機能のPRは充分か？ ●川崎地域にて実施している防災訓練等にも積極的に参加して頂いている。 ●オレンジカフェ的な存在が理想とは思いますが、勤務に無理があるのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業所のことを知って頂けるよう、フリーカフェを実施し、地域住民との交流につなげていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事、イベントの参加よりも日常生活に関わる設問にした方が良い評価ができるのではないかと？ ・地域の行事を知る工夫をされたらどうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域の行事、イベントに冬場、夕方等にて参加が困難な為、日中に外出等計画(ドライブ、買い物等)し、外出機会を設ける。

E. 運営推進会議を活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> ●事例検討があったとして、どのように反映していくのか？ ●評価基準がなく、設問に対して回答者の主観になり、評価のための評価になっている。改善のための評価であるべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域での心配のある方等の事例検討において、包括との連携と、個人情報、プライバシー含めて事例の検討、確認を行なっていく。
F. 事業所の防災・災害対策			<ul style="list-style-type: none"> ●自主防災会長と町内会長へは、非常時緊急通報をもらい避難する人の見守りをする事になっています。 ●訓練の様子の見学、事業所の防災計画について紹介があるとよいと感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ●防災計画について、運営推進会議にて説明、内容について提示し、地域の方にも知って頂く。 ●防災訓練等、参加、見学をして頂く。